地域音楽コーディネーター養成講座【名古屋11月】

文化と地域創生

文化を活かしたまちづくり

2026年11月21日(土)

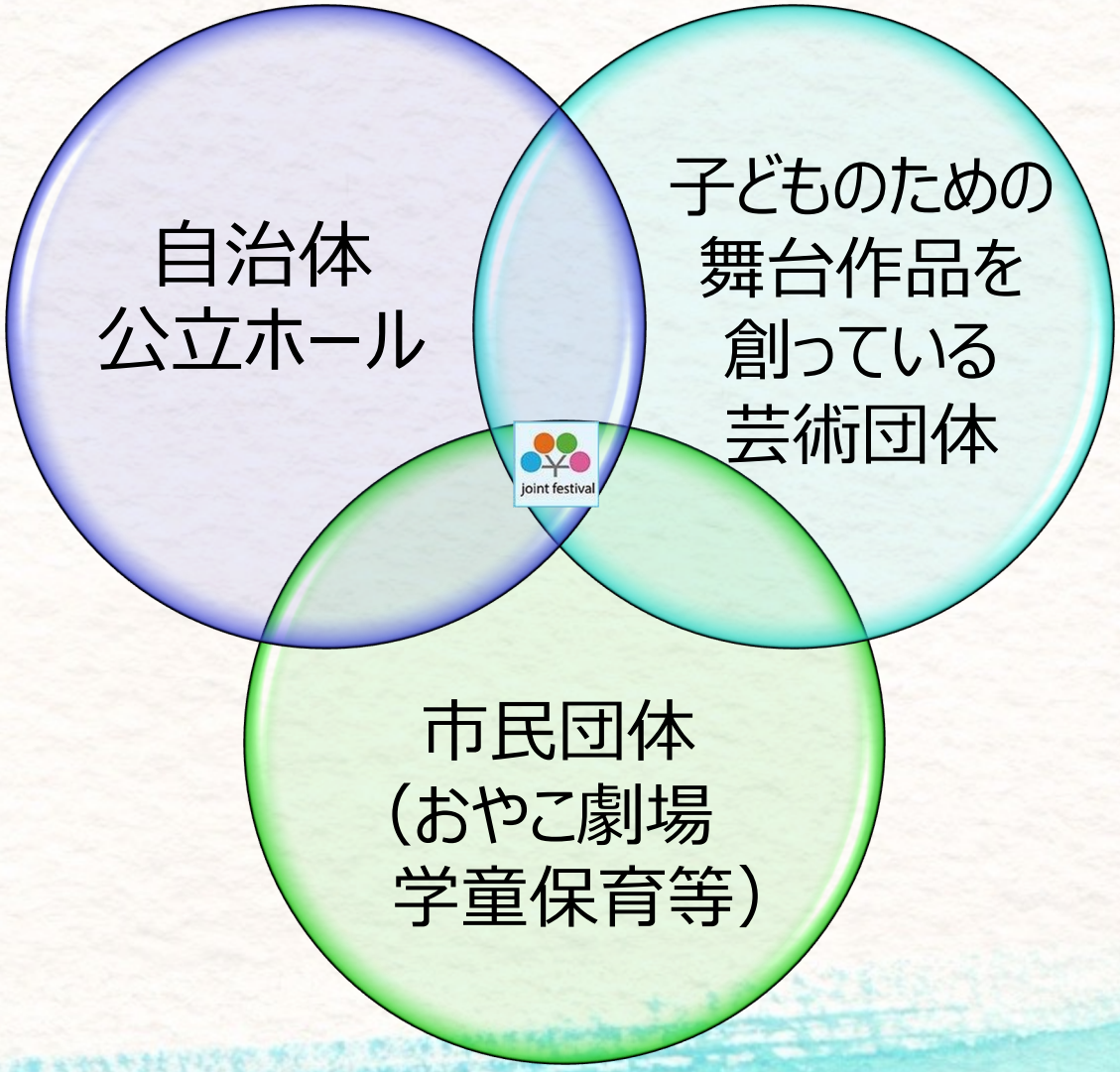
ジョイントフェスティバル協議会会長　広中省子
Niterra日本特殊陶業市民会館/公益財団法人音楽文化創造

ジョイントフェスティバル

子どもたちに優れた舞台芸術を提供するために、東海地方の自治体・公共ホールと芸術団体・市民団体が協働して、夏休みに実施している広域連携プログラム。

2013年に開始して以来、単館開催が難しい海外作品を11作品招聘し、東海地方の芸術団体との交流・情報交換などを通して、子どもの舞台をのべ40作品公演してきました。

ジョイントフェスティバル協議会



自己紹介

一市民として

2022年4月～　ジョイントフェスティバル協議会 会長

2018年8月～　リニモテラス運営協議会　副会長（まちづくり）

行政の立場

2018年4月～2021年3月　長久手市文化の家館長

2021年4月～2022年3月　文化の家事業アドバイザー

行政との関わりの

1997年　文化の家開館前からマスタープラン策定に関わる
1998年　文化の家開館後は企画委員として関わる

文化活動のルーツ

1987年～　おやこ劇場に３人の子どもとともに入る
1996年～2007年　日進おやこ劇場の運営委員長
2008年～2017年　子ども・おやこ劇場東海連絡会運営委員長

私にとって文化活動のルーツ

おやこ劇場

舞台芸術鑑賞と、子どもの健全育成を目的とする会員制の会。日常は地域の仲間と遊びを中心とした活動をしながら、自分たちでお金（会費）を出し合ってプロの劇団を招き、年齢にあった舞台作品を鑑賞している

ジョイントフェスティバル協議会

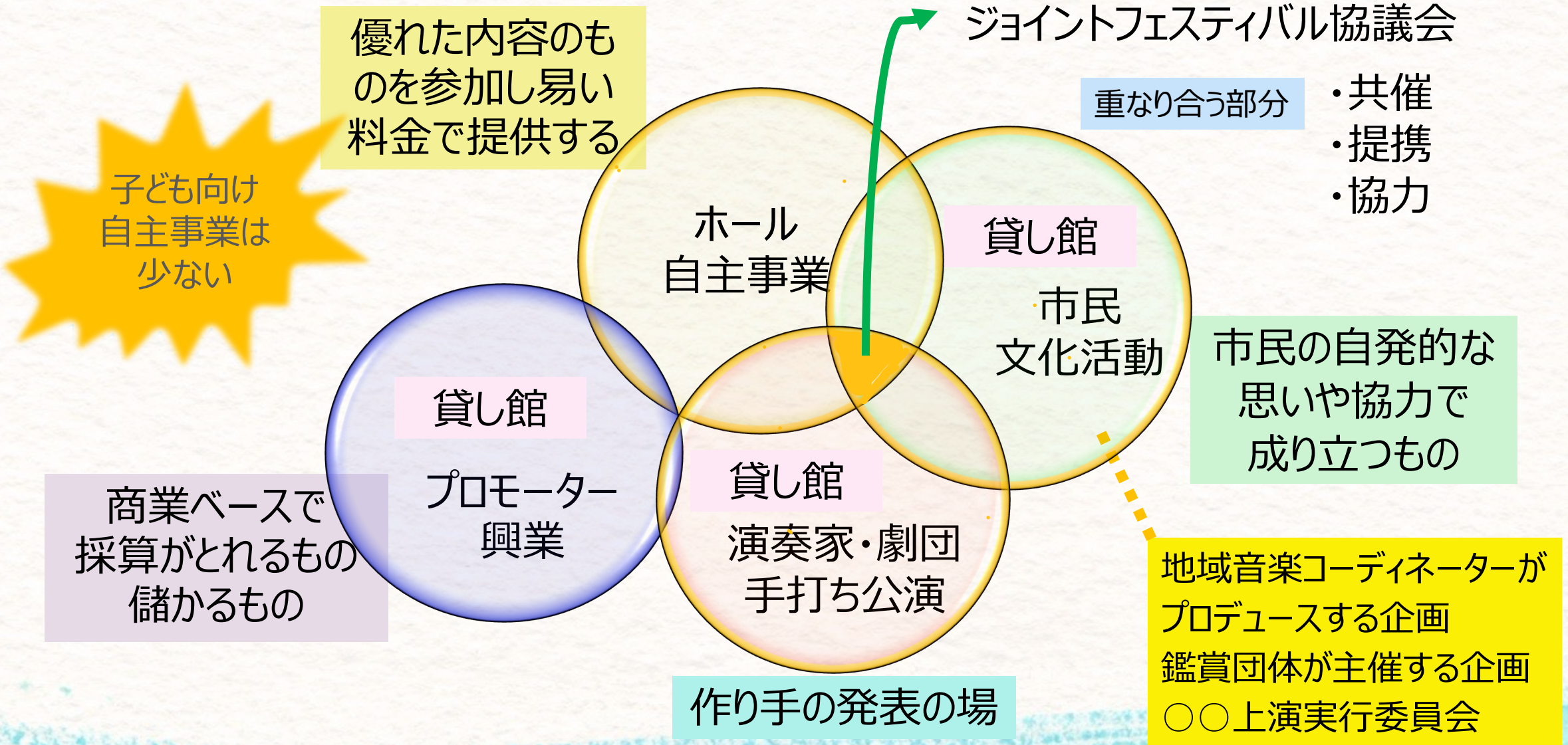
ホールと劇団と市民団体が連携協力して、身近な地域で子どもの舞台公演を実現する仕組み

子どもの心の健全な成長のためには、

- 遊びが大切（日常）
- 地域の仲間やつながりが大切
- 優れた舞台芸術の鑑賞が必要（非日常）

子どもたちが身近な地域で舞台芸術と出会う機会を増やす

身近な地域のホールでは、どんな公演が行なわれているか？



残念ながら、ホールによっては貸し館が多くて自主事業が少ないところもある

地域の文化環境 → 地域によって差がある

文化芸術に対する考え方 → 国によって違いがある

コロナが世界各国で広がった2020年

日本でも、コロナウィルスの感染は、あっという間に全国に広がった

ライブ会場や舞台での感染拡大から

舞台公演やコンサートは軒並み中止となり

劇団や楽団、アーティストや関係者たちは、全く仕事が無い状態になった

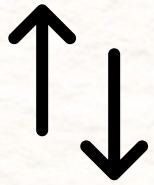
コロナ禍で仕事を失ったアーティストに対して…

ドイツでは、文化相がコロナ感染拡大直後の2020年３月

ドイツ政府の文化的政治的最優先事項であるとして

1兆円を超える文化支援を表明

それに対して



日本の文化庁長官は３月

具体的な支援には一言も触れないメッセージを発表し

芸術家を失望させた

この違いは何か？

文化芸術に対する考え方

日本社会では伝統的に「衣食足りた後のぜいたく品」と考えられてきた

国として「文化芸術」に税金を使う根拠を示す法律ができたのは2001年

劇場や音楽堂に、どのような役割があるかを示す法律は2012年までなかった

お芝居や音楽は愛好家の個人的な娯楽で、公益性は薄いと考えられがち

非常時には「歌舞音曲の類い」は自粛するようにと言われてきた

残念ながら21世紀まで、日本社会で文化芸術の優先順位は低かった

1995年
阪神淡路大震災
の時も…

行政は歌舞音曲の自粛を求めたが…

芸術ボランティアは避難所に出かけて行った

大人は、「文化よりもおにぎりを持って来い！」と思ったが

子どもたちにとって芸術ボランティアの活動は、震災に傷ついた心のケアとなった

子どもたちの笑顔が、絶望して疲弊した大人の心に希望の灯をともした

衣食が足りない極限状況の中でこそ「文化芸術」が必要だった

文化芸術は人間
がより良く生きる
ために必要！

貧しいとき、辛いとき、悲しいときにこそ、人々は芸術を求める。**どんな人でも等しく文化芸術に触れる（アクセスする）権利がある。**

「文化的人権」の保障

この後、わが国でも文化芸術に対する理解を深める法律ができた

文化芸術振興基本法（2001年）に書かれている

文化芸術の意義

文化芸術は、芸術家や文化芸術団体

また、一部の愛好者だけのものではなく

すべての国民が真にゆとりと潤いの実感できる

心豊かな生活を実現していく上で不可欠なもの

劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（2012年）に書かれている

劇場、音楽堂等とは

文化芸術を継承し、創造し、発信する場

人々が集い、人々に感動と希望をもたらし、人々の創造性を育む場

人々が共に生きる絆を形成するための地域の文化拠点

年齢や性別、個人を取り巻く社会的状況等にかかわりなく全ての国民が

潤いと誇りを感じることのできる心豊かな生活を実現するための場

社会参加の機会を開く社会包摂の機能を有する基盤として

活力ある社会を構築するための大きな役割を担っている

さらに、文化芸術基本法（2017年）に新しく加わったこと

（新設）第２条８項　文化芸術に関する施策の推進にあたっては、乳幼児、児童、生徒等に対する文化芸術に関する教育の重要性に鑑み、学校等、文化芸術活動を行う団体、家庭及び地域における活動の相互の連携が図られるよう配慮されなければならない

子ども
乳 児

（新設）第２条10項　文化芸術に関する施策の推進にあたっては、文化芸術の継承、発展及び創造に活用することが重要であることに鑑み、文化芸術の固有の意義と価値を尊重しつつ、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業、その他の関連各分野における施策との有機的な連携が図られるよう配慮されなければならない

観　光

まちづくり
（コミュニティ再生）

国際交流
（多文化共生）

教　育

産 業

伝統文化

市民参画

福 祉
（社会包摂）

環　境

つまり

公立文化施設は自力でホールに来ることができる

健康と経済力と時間と関心がある一部の愛好家だけを対象にした

文化事業を実施していればいい訳ではない

さらに

観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業など、

いろいろな分野と連携して、文化芸術を活用していくことが大切

「子ども」「高齢者」「障害や病気の人」「生活困窮者」「外国人」など

弱い立場の人たちや社会から排除されがちな人たちの

孤立を防ぎ、社会との関わりを閉ざさないことが大切



すべての人を包み込み、一人も取り残さない社会



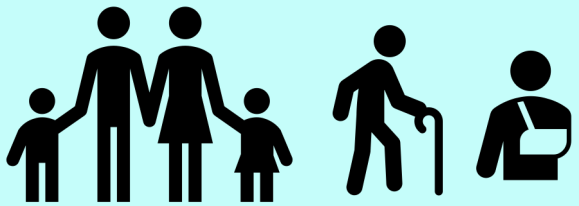
社会包摂

文化芸術をまちづくり（まちの課題解決）に活かす視点



芸術文化

地域社会



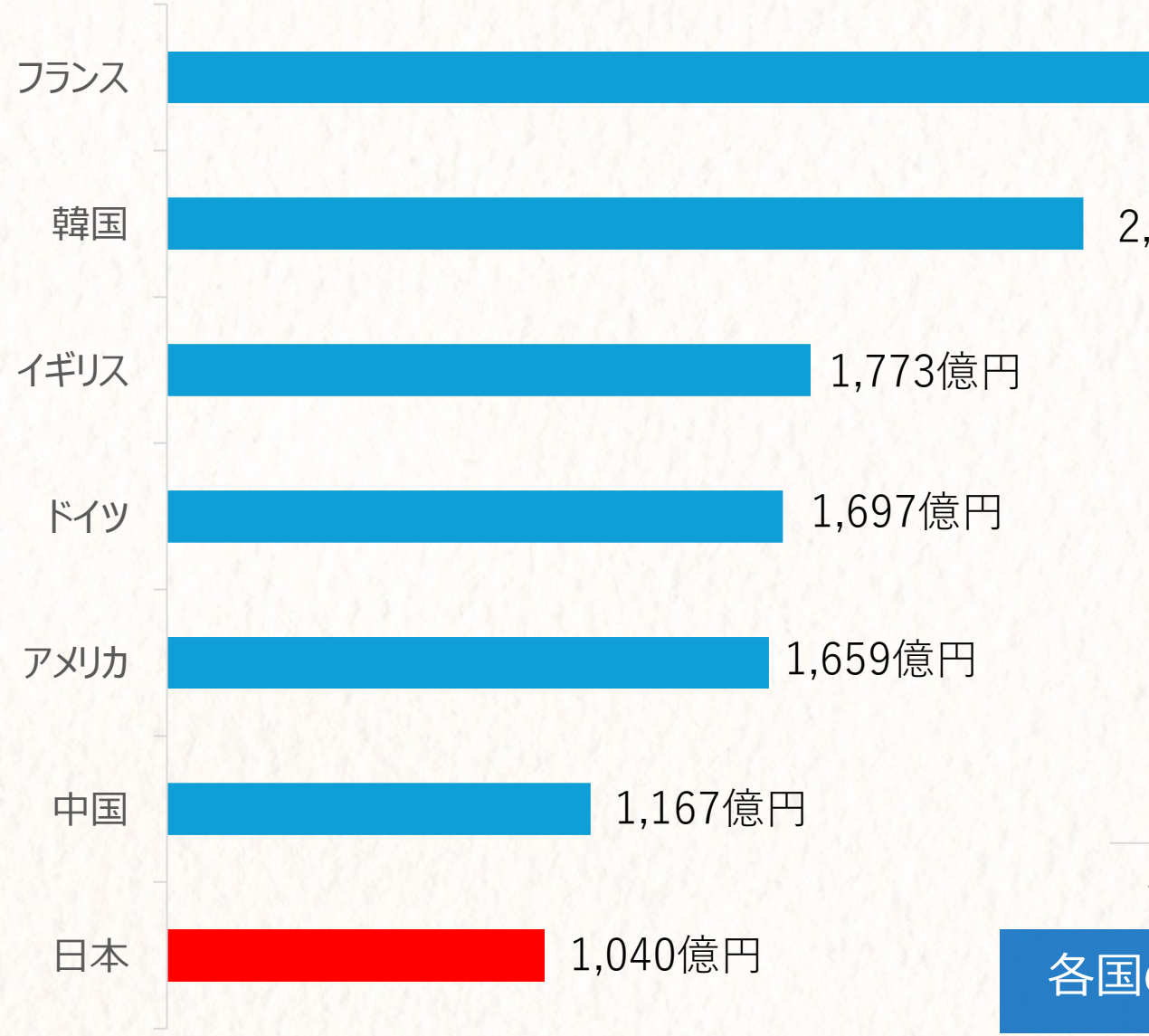
しかし

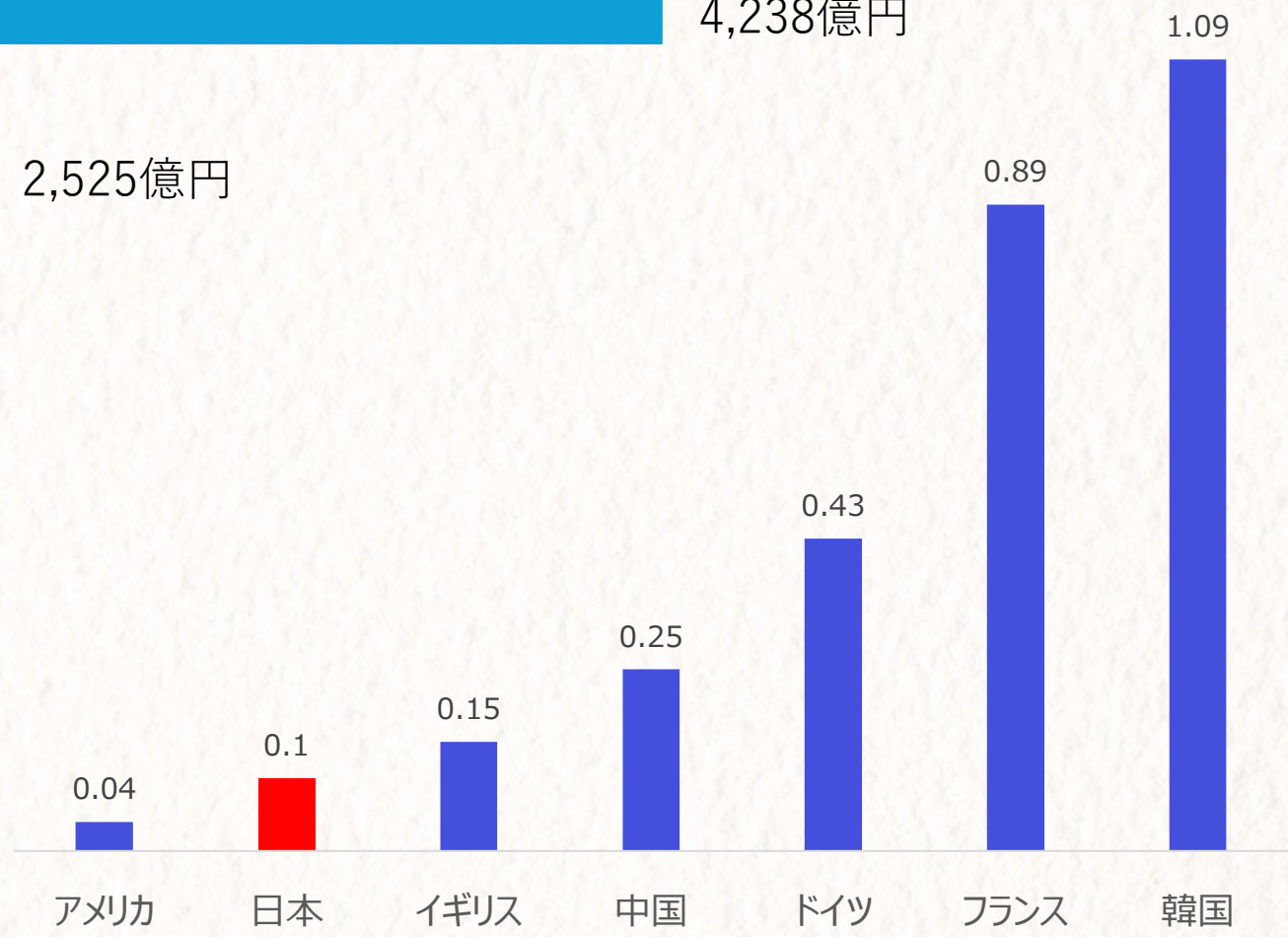
公立ホールだけで

きめ細かい問題を解決できるのか？

財源はあるのか？

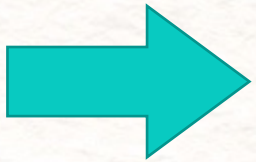
各国の文化予算額の比較（2016年）





各国の文化予算が国家予算に占める割合の比較（2016年）

税金を何に優先的に使うのか？



国によって違いがある

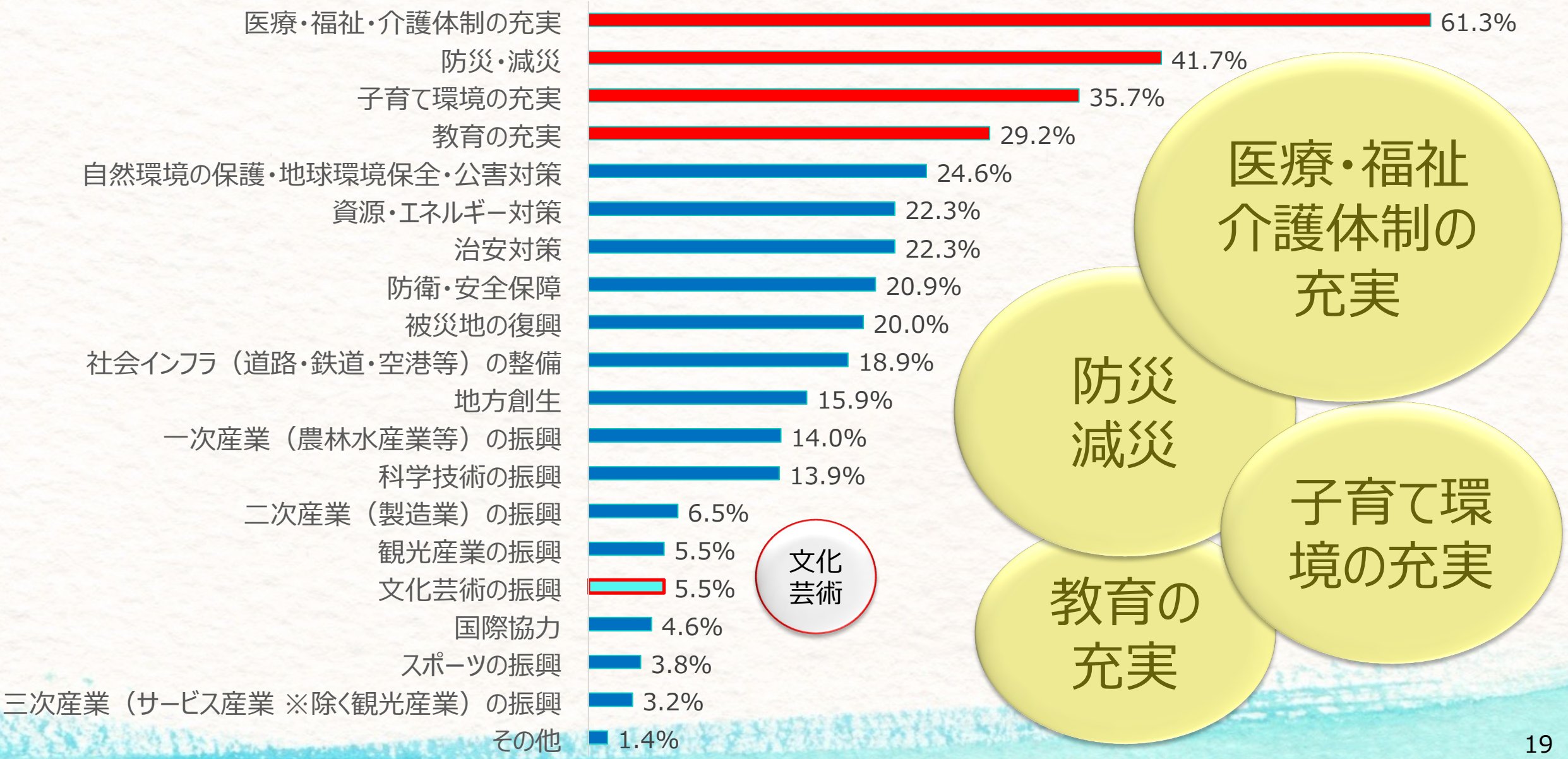
地方によって違いがある

人によって違いがある

公的支援の優先度の高い分野

※各回答者が最大5つまで選択

一般社団法人「芸術と創造」（2020年６月）
文化芸術への公的支援に係る世論調査



72%の人が文化芸術が重要だと考えているが、

優先的に公的予算をつけるべきと考える人は34%

優先的に公的予算をつけるべきではないと考える人の方が多い(43%)

多くの市民は「文化芸術」よりも

「医療・福祉・介護」、「防災・減災」、「子育て」、「教育」などに

優先的に予算をつけるべきと考えているし

議員や自治体職員の中にも、文化や芸術は必須不可欠なものではないと考えて

政策順位を低くみるか「おまけ」のように見ている傾向がある

文化政策は地域によって大きな差がある

限られた財源でどうすすめていくのかは大きな課題

日本で、優先的に公的支援を行うべきと考えられいる分野

医療・福祉介護体制の充実

イギリスでは・・・

ヘルス＆ウェルビーイングの視点からアートが医療・福祉・介護の分野で活用されている

アートとは、単に「芸術」＝絵画・彫刻・音楽を指す言葉ではなく、人間が
より健康で精神的にもより良く人間的に生きるための「技」と捉えられている

社会的な意義について周知

イギリスでは、アートとヘルスについての 価値を、あまり関心の無い人にも、証拠や根拠をもとに説明している。これまでに分かった効果の一例として、

◆音楽・・・陣痛時間を 2.1 時間短縮 、ストレスホルモンであるコルチゾールが 32%減少 、抑うつ感が 31%減少

◆視覚アート・・・不安感が 18%減少 、手術を受ける患者への効果：1kg当たり 0.83mgの麻酔の減少、コルチゾールが48%低減、平均在院日数が１日短縮

文化芸術を使って

改善が求められる分野に働きかけることで

地域の課題が解決されたり

いきいき活動する市民が増える

文化を活かしたまちづくりをすることで

新しいつながりが生まれたり

住んでいて楽しいまちになる

たとえば…

日本は世界一の長寿国

人生100年時代といわれるが

高齢者にとって大切なのは

元気に自立して過ごせる期間（健康寿命）を延ばすこと

コロナ禍に外出の機会が減った高齢者は

健康に大きな影響を受けた

私たちの寿命は何によってどれくらい縮まるのか？

死亡リスクの比較

孤立 社会とのつながりが少ない　約1.9倍

喫煙　約1.6倍

過度の飲酒　約1.4倍

肥満　約1.2倍

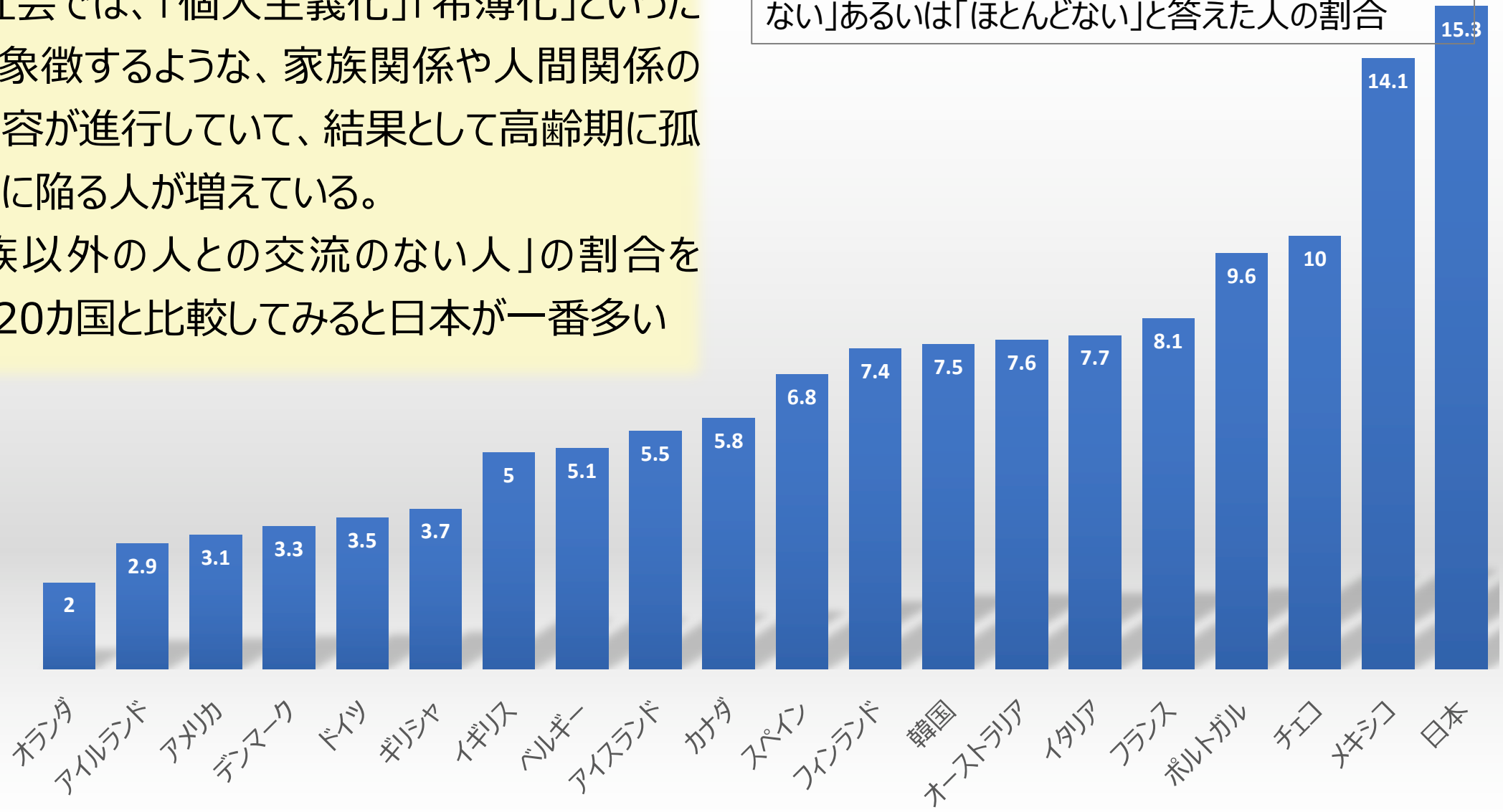
喫煙・飲み過ぎ・肥満よりも「社会とのつながり」が一番長寿に影響している

社会的孤立度の各国比較

日本社会では、「個人主義化」「希薄化」といった言葉が象徴するような、家族関係や人間関係の質的変容が進行していて、結果として高齢期に孤立状態に陥る人が増えている。

「家族以外の人との交流のない人」の割合をOECD20カ国と比較してみると日本が一番多い

友人・職場の同僚・その他社会団体（カルチャーセンターやスポーツクラブ等）の人々との交流が「全くない」あるいは「ほとんどない」と答えた人の割合



つながりの少なさが国家経済に与える損失は約4.5兆円、「孤独は現代の公衆衛生上最も大きな課題の一つ」として、イギリスでは2018年「孤独担当大臣」が新設される。日本でも2021年２月に世界で２番目の「孤独・孤立対策担当大臣」を任命したが、石破政権から「共生・共助」の枠組みの中に吸収された。

健康を維持するつながりの目安

１日１回以上　外出

週１回以上　友人知人などとの交流

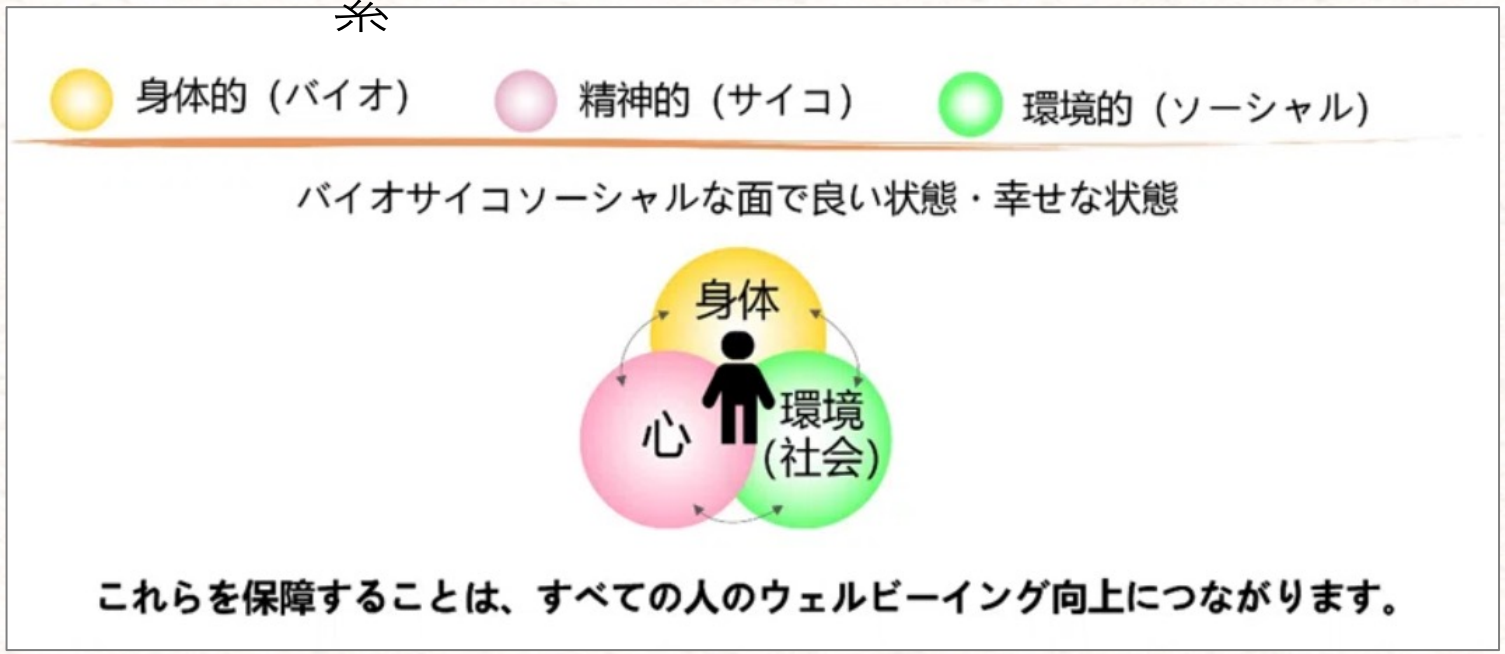
月１回以上　楽しさ・やりがいのある活動に参加

しかし
一度、閉じこもってしまった人を外へ誘うことは容易でない

孤立状態に陥る手前の段階で、いかに予防的な対応を本人や地域ができるかが重要

地域でどんな取り組みができるか？

ウェルビーイングの3つの要素



こども家庭庁：はじめの100ヶ月の育ちビジョン

ユニセフ「予測できない世界における子どもたちのウェルビーイング」（2025年）

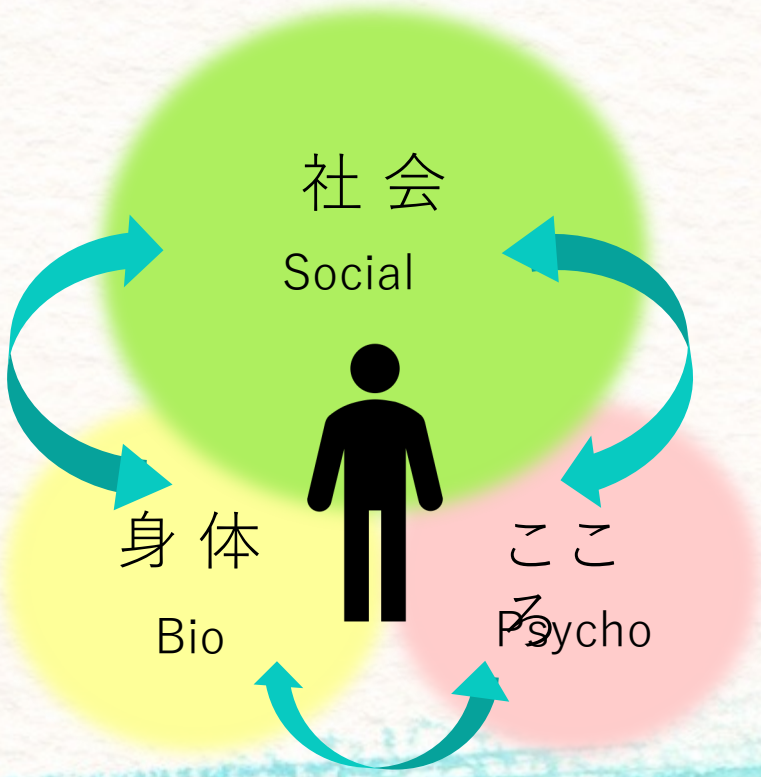
日本の子どもの幸福度は36カ国中14位

身体の健康は1位

精神的幸福度の順位は32位

学力は8位

社会的スキルは29位



年をとると、身体的には衰えていく

お金や社会的地位があるだけでは、心は満たされない

問題が深刻化すると
行政的な対応が
必要だが

文化芸術活動には
心の豊かさと潤いを
求める市民が集まる

楽しい活動には
共感者が集まり
人がつながり、社会の中に
居場所や役割が生まれる

文化芸術を活用した
取組みで地域の
活性化を図る

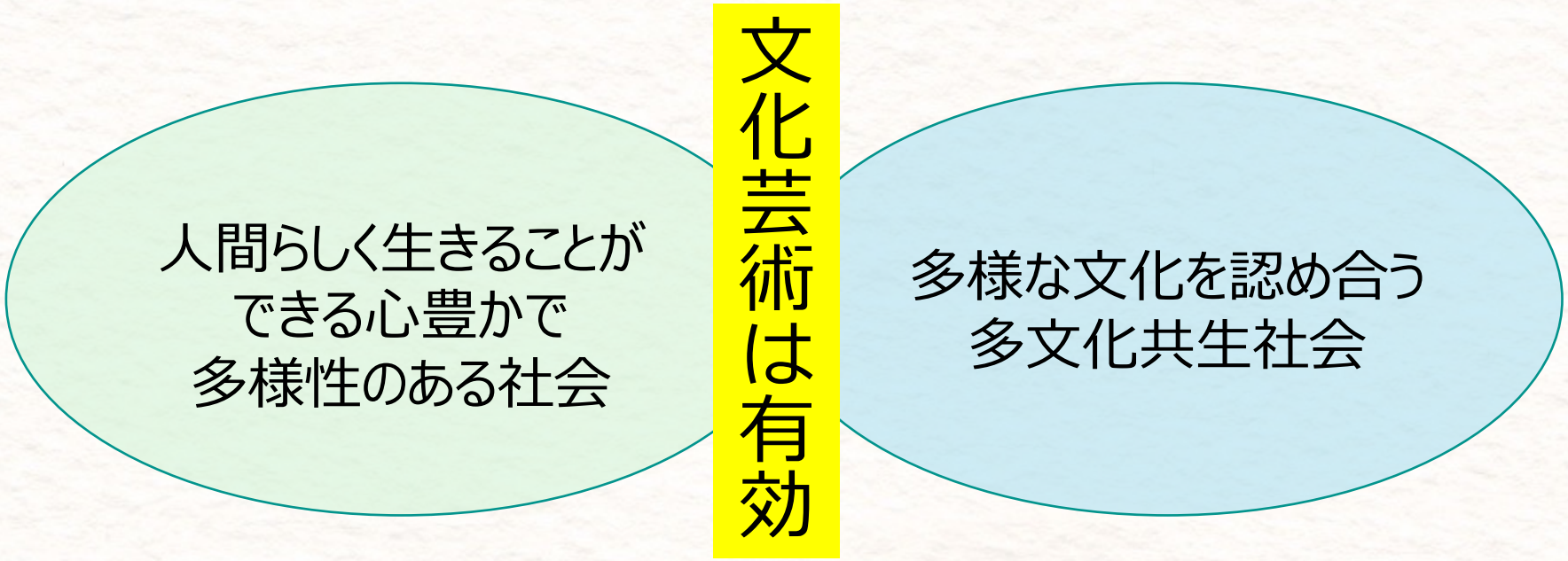
そうなる前に
そうならないような
取組みが地域で
考えられないか？

住んでいて
楽しい
しあわせ
住み続けたい

＝

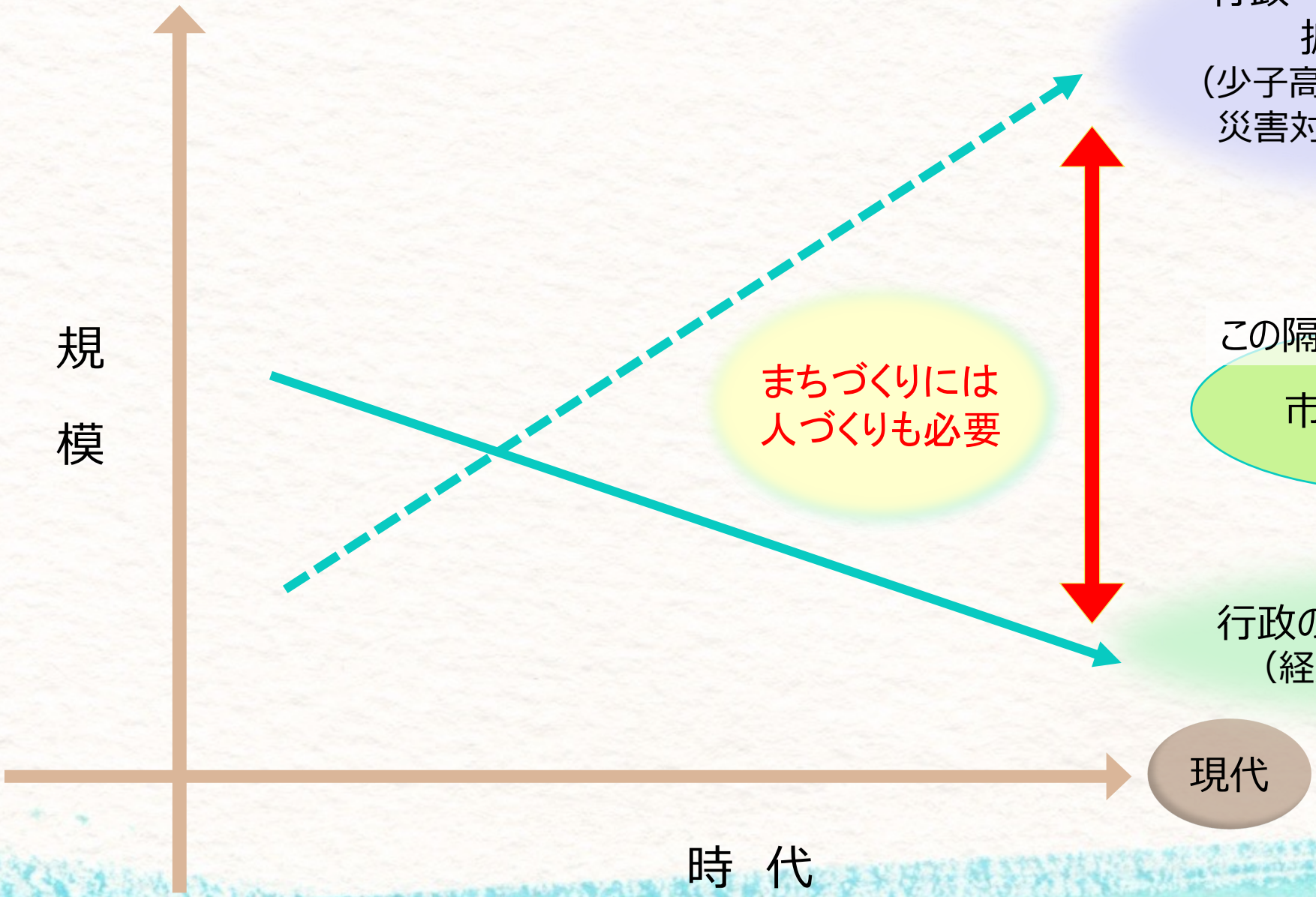
ひとづくり
まちづくり

さまざまな地域社会の課題がある中で



持続可能で回復力のある地域文化コミュニティを形成するためには行政だけでなく、多様な人材や文化芸術団体・諸機関が連携・協働することが必要

自治体行政のこれまでとこれから



行政へ期待される機能は
拡大・専門化
（少子高齢化・地域活性化
災害対策・温暖化対策etc.）

この隔たりを埋めていくのが

市民・民間の力

行政の規模は縮小傾向
（経費・人員の削減）

地域音楽コーディネーター

音楽の楽しさを伝えたい！
大好きな音楽を使って
社会貢献したい

地域での
音楽文化活動

地域が活性化する

人が元気になる

音楽を通して感動を共有
音楽体験によって世界をひろげる
音楽が人や社会をつなぐ

楽しいだけでなく、人や社会とのつながりを感じることが、身心の健康のために必要

文化芸術を活用して地域の課題を解決する＝まちづくり

社会包摂
一人も取り残さない社会

格差社会
文化資本の格差解消

学校における働き方改革の推進

高齢者・障害・乳児・病児・不登校児・引きこもり・生きづらさを抱える人々・外国人　など

アウトリーチ

「芸術鑑賞」時間のマネージメント

地域文化クラブ活動推進事業

地域文化クラブ活動への地域展開推進

行政はニッチなニーズに、きめ細かく対応していくことは不得意。アートと連携して、問題解決にあたるという発想もほぼ皆無…。だからこそ、専門的な知識や人脈を活かした提案を、熱意をもってこちらからアプローチしていくことが大切

長年の音楽活動で培ったスキルや人脈 ＋ 社会的な視野や意識

↓

音楽文化の裾野を広げる文化活動 ＝ 音楽を活用した地域の課題解決

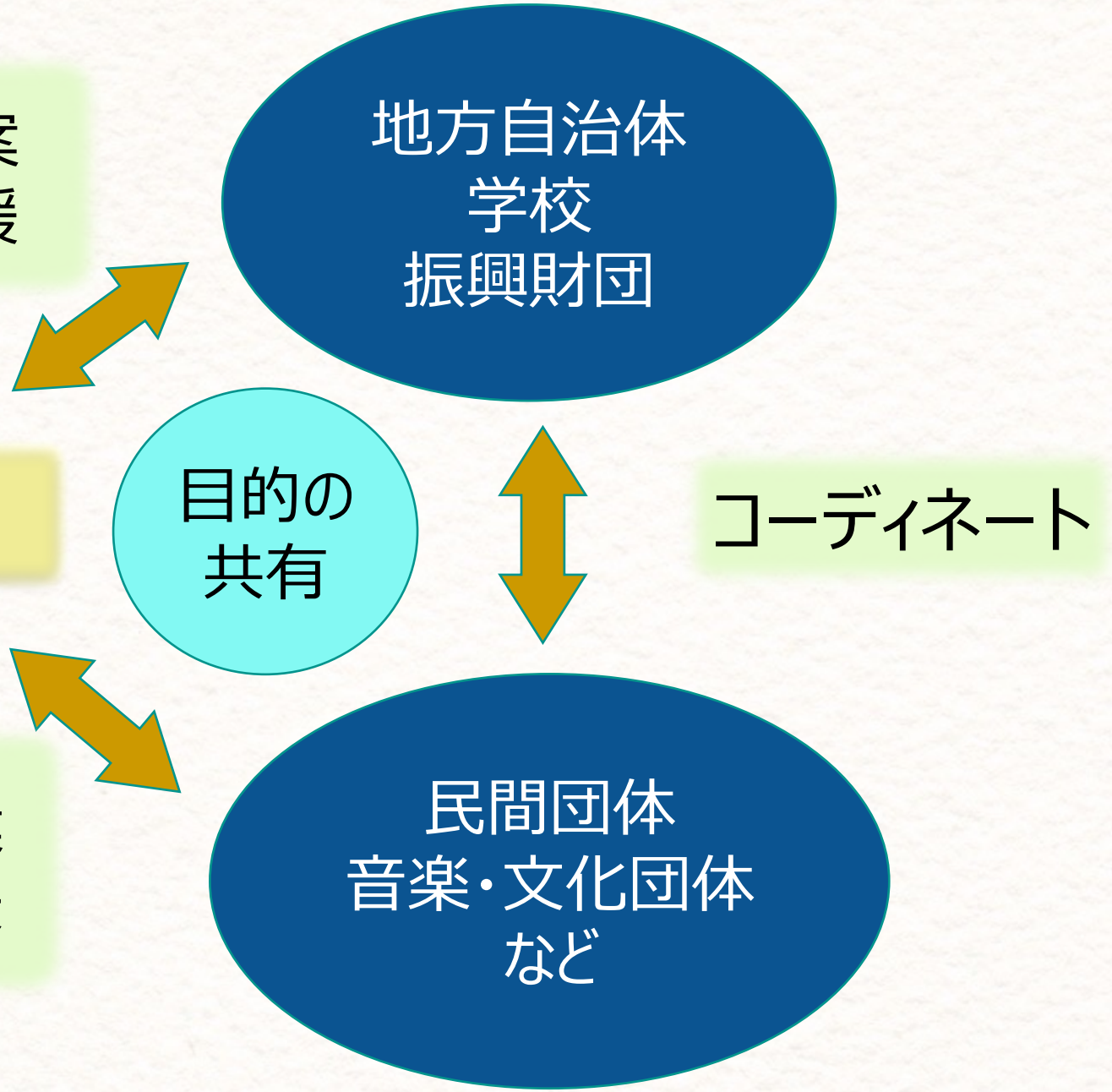
一過性のイベント → 継続性のある社会貢献

地域の音楽家や芸術的な資源を把握し、
民間と行政の連携協力を図るキーパーソン ＝ 地域音楽コーディネーター

音楽を使って
地域の課題を解決する
地域を元気にする
住んでいる人をしあわせにする
これから必要とされるのは
そんな視点を持った

地域音楽コーディネーター

行政には
さまざまな課題解決が
求められています
文化芸術分野でできることや
民間の協力でできること
の可能性を広げていく
ことが求められています



文化芸術は、まだまだ
行政や市民にとって
優先順位の高い話題ではありません

しかし
少子高齢化がすすむ社会で
多様化する地域の課題を
縦割りの行政だけで
解決するのは難しい

市民も一緒に動いて
自分が暮らす地域を
住みやすく変えていくことが大切
その時に力となるのは
文化芸術の魅力です！

地域に多様な音楽文化の活動があれば

その活動に多くの人が参加し

音楽でつながる仲間が生まれたり

新しいかかわりが生み出されます

それは、現代社会に共通する

「つながりやかかわりが薄い」という

社会課題の解決につながる道です

豊かな地域社会の創生に

文化芸術は有効です

音楽でまちを楽しく！

ご静聴ありがとうございました